

【殺菌剤】

系統名	略称	特性
無機殺菌剤	無機殺	無機銅剤および無機硫黄剤、炭酸水素塩製剤、金属銀が該当する。さび病やうどんこ病に殺菌作用を持つ。
有機銅殺菌剤	有機銅	無機銅よりも浸透性、殺菌性が高く、効果的な保護・薬効作用を示す。
有機硫黄殺菌剤	有機硫	保護効果を示し、薬害も少ない。
有機リン系殺菌剤	有機リ	胞子発芽、菌糸伸長の各生育期で阻害作用があり、予防的及び治療的効果の両方を併せ持っている。
メラニン生合成阻害剤	MBI-D ※ MBI-R	菌の付着器でのメラニン生合成を阻害し、付着器壁の物理MBI-R的強度を低下させることにより、菌の植物体内への侵入を阻害する。感染過程を阻害することから、剤の浸透移行性の有無にかかわらず、予防剤として働く。
ベンズイミダゾール (ジエトフェンカルブ剤)	ベンズ	広範囲の病害に有効である。感染防止効果は強く、病斑の拡大も阻止することから、予防効果、治療効果を併せ持っている。植物体内での浸透移行性もあり、残効は長い。
	ジエト	ベンズイミダゾール系薬剤と負相関交差耐性を示す薬剤である。
ジスルボキシイミド系殺菌剤	ジカル	胞子の発芽抑制及び菌糸伸長抑制効果が主体である。特に予防効果が優れている。植物体内への浸透移行はほとんど認められない。
アミド系殺菌剤	アミド	予防効果と治療効果を併せ持つ。強い浸透移行性を有する。殺菌スペクトラムは狭い。
ステロール生合成阻害剤	EBI	菌のステロール合成を阻害する。予防効果と治療効果を併せ持つ。植物体内に速やかに浸透するため耐雨性も認められる。低薬量で高い効果を示す。ジベレリン生合成も阻害することから、多量に使用すると、薬害を生ずる。
ストロビルリン系殺菌剤	ストロ	抗菌スペクトラムが広い。病原菌胞子の発芽阻害及び胞子形成阻害等の作用を示す。予防効果及び治療効果を併せ持つが、治療効果を有さない薬剤もある。
アニリノピリミジン系殺菌剤	アニリ	菌糸の伸長阻害効果は高くないが、感染抑制効果は高い。薬剤によって浸透移行性に差がある。予防剤であるが、治療効果を示す剤もある。
土壌殺菌剤	土壌	土壌伝染性病害を防除するための土壌施用専用剤である。
その他の合成殺菌剤・天然物由来の殺菌剤	その他	現時点では系統を設けるには時期尚早な薬剤である。
抗生物質	抗生物	選択性が強く、治療効果を有する。持続性はやや劣る。
生物農薬	生物	病原菌に対する拮抗菌である。寄生、抗生競合、溶菌など菌によってその作用は異なる。拮抗菌であるため治療効果は認められない。

※メラニン生合成阻害剤は、耐性菌発生リスクの異なる2系統に分類する。

MBI-D: 対象薬剤はウィン、デラウス、アチーブ。

MBI-R: 対象薬剤はラブサイド、コラトップ、ビーム等。

【殺虫剤】

系統名	略称	特性
有機リン系殺虫剤	有機リン	殺虫スペクトラムが広い。神経障害作用を示す。食毒作用を有するが、主に接触毒あるいは浸透性殺虫剤として作用する。多くの薬剤は速効的である。
カーバメート系殺虫剤	カーバ	接触剤として作用するほか、植物体内への浸透移行性を有する。有機リン系薬剤に比較してやや遅効的であるが、残効は長い。
ピレスロイド系殺虫剤	合ピレ	神経系に作用し、異常興奮及び興奮伝導の抑制作用を示す。広範な害虫に対し、接触毒あるいは食毒を有し、速効的に作用する。また、安定性、耐雨性、残効性も有する。
ネライストキシン系殺虫剤	ネライ	神経興奮の伝導を遮断することによって殺虫作用を示す。中毒症状から致死までの時間が長く、やや遅効的であるが、害虫の摂食活動を停止させる作用もある。
ネオニコチノイド系殺虫剤	ネオニ	神経興奮を遮断し、害虫を麻痺、死亡させる。摂食毒や食毒として作用するほか、浸透移行性を有し、残効性も高い。殺虫作用のほか、摂食、吸汁行動の抑制による生育不良や交尾・産卵行動にも影響を及ぼし産卵数の減少などの作用もある。
ジアミド系殺虫剤	ジアミ	昆虫のカルシウムチャンネルに特異的に結合することにより体収縮症状、摂食活動の停止を引き起こし、死に至らしめる。哺乳動物に対する毒性は低く、また、天敵、有用昆虫(カイコガ除く)への影響は小さい。
フェニルピラゾール系殺虫剤	ピラゾ	神経系に作用するが、従来の殺虫剤と作用機構が異なるため、感受性が低下した害虫に対しても効果がある。低薬量で効果を発揮し、即効性と残効性を有する。
マクロライド系殺虫剤	マクロ	呼吸作用に関わるミトコンドリアの電子伝達系阻害剤でチョウ目、カメムシ目、アザミウマ類、ダニなど多くの害虫に殺虫作用を持つ。
スピノシン系殺虫剤	スピノ	チョウ目、アザミウマ目害虫など幅広い殺虫スペクトラムを有する。神経伝達に異常を引き起こす。
昆虫生長抑制剤	IGR	キチン合成阻害あるいは幼若ホルモン様物質などで、脱皮・変態を攪乱することによって害虫を死亡させる制虫的な作用を示す。種選択性が高く、天敵に対する影響は少ない。幼虫期の効果が高い。遅効的であるが、適期に使用すれば残効は長い。
その他の合成殺虫剤	その他	上記系統に含まれない薬剤である。また、物理的に気門をふさぐなどにより死亡させる作用を持つものも含まれる。
天然物由来の殺虫剤	天然	
殺ダニ剤	ダニ剤	ダニに効果を示す薬剤である。
殺線虫剤	線虫剤	線虫に効果を示す薬剤である。
天敵資材	生物	カブリダニなどの捕食性ダニ、寄生バチや捕食性カメムシなどの昆虫、昆虫寄生性の線虫などの資材がある。防除対象種が限られる。
BT剤		<i>Bacillus thuringiensis</i> Berlinerに属する細菌が、その菌体内に生成する結晶毒素タンパク質を有効成分とする薬剤である。
生物農薬		生物そのものや生物が産生する物質である。効果の発現が遅効的である。
性フェロモン	性フェ	性フェロモンを使用した交信かく乱効果が期待できる。

|